2026年11月20日(金)

特別講演 | 外科

13:20 ~ 13:50 | 第1会場（2F コンベンションホール1）

特別講演 1

司会：田中 信治（医療法人ハートフル アマノ病院）

[SL-1] がん研究の歩みと未来　ー根治を目指してー

*森 正樹[1] (1. 東海大学医学部)

©一般社団法人 日本大腸肛門病学会

特別講演 | 外科

2026年11月20日(金) 13:20 ~ 13:50 | 第1会場（2F コンベンションホール1）

特別講演 1

司会：田中 信治（医療法人ハートフル アマノ病院）

[SL-1] がん研究の歩みと未来　ー根治を目指してー

*森 正樹[1] (1. 東海大学医学部)

©一般社団法人 日本大腸肛門病学会

特別講演 | 外科

2026年11月20日(金) 13:20 ~ 13:50 | 第1会場（2F コンベンションホール1）

特別講演 1

司会：田中 信治（医療法人ハートフル アマノ病院）

[SL-1] がん研究の歩みと未来　ー根治を目指してー

*森 正樹[1] (1. 東海大学医学部)

長年、がん研究を行ってきたが、未だに最終ゴールが見えない。本講演ではこれまでの研究を振り返り、今後何をなすべきかを共に考えることができれば幸いである。
われわれはがん幹細胞（cancer stem cell）に着目し、その可視化を行い、その動態を観察した。がん幹細胞からは冬眠状態（静止状態）のがん幹細胞と細胞分裂が盛んな前駆細胞が生まれる。当初はこのヒエラルキーを利用して、がん幹細胞を駆逐できればがんを消滅できると考え研究を進めたが、その後の研究でがん幹細胞も多様性を獲得することが明らかになった。最初のがん幹細胞のみを標的としても、癌を駆逐できないことが分かった。そこで次々と起こる新たな変異に対しても迅速に対応でき、治療効果が期待できるマイクロRNAを基盤とした新規治療法の開発を行っている。また並行して、そのマイクロRNAを生体内で効率よくがん細胞に届けるドラッグデリバリーシステム(DDS)の開発を行っているので紹介する。他方で免疫治療への期待が高まっている。既に免疫チェックポイント阻害剤は日常臨床に浸透しており、最近では腫瘍制御性T細胞の治療応用も始まっている。また固形がんに対するCAR-T療法も可能性が検討されている。これらの免疫治療の行方についても言及し、がんが完全にコントロールできる時代が来るか、共に考えて欲しい。

©一般社団法人 日本大腸肛門病学会